

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 藤岡市立神流小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒375-0012
群馬県 藤岡市 下戸塚190

E-mail kanna-es@fujioka-school.gunma.jp

Website http://10209.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1010003

幼児児童生徒数 男子 214名 女子 237名 合計 451名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は、「笑顔 歌声 やる気いっぱいの神流小」を学校スローガンとして、ESDを「人と人をつなぎ、力を合わせてよりよい未来を自分たちの手で創りあげていく活動」と捉え、ESDの実践を通して「他者と協力する態度」「つながりを尊重する態度」「進んで参加する態度」「自分で感じ考える力」「気持ちや考えを自分から表現する力」の育成を目標とし、全ての子供達に日々質の高い教育を行っていくことを、地域や他校とも協力しながら目指している。

具体的には、国語科と音楽科と体育科の学習を関連させ、業前や総合的な学習の時間を使い、次の学習を行ってきた。①全校合唱、②全校朗読、③全校ダンス、④合唱部による地域活動への積極的参加、⑤服のチカラプロジェクト

①全校合唱による学び

「この曲を聴いてどのような景色が心に浮かびましたか」「この言葉から、この詞を書いた人はどのようなことを考えて書いたと思いますか」と、音楽主任の先生が子供達に問いかけると、子供達は自分の思いを話し、それを聞いた子が、自分の思いを付け足したり違う考えを話したりしていった。自分

から話しかけられない子もいるが、周りの子の発表を聞いて頷くなど、自分の考えの幅を広げている。話し終えた後の歌声や表現の仕方は確実に変わり、自分の考えや思いを歌声という形で表現しようとしていることがわかる。話すこと歌うことで伸びる表現する力、友達同士や学年を越えたつながりの深まり、全校みんなで変化を実感できる満足感など、全校合唱は、多くの学びを生んでいる。

②全校朗読による学び

国語部から提案された詩や本の一節などを、1年生から6年生までが各教室で朗読練習をする。体育館で行われる全校朗読では、自分達の読みを披露したり、全員で声を合わせて朗読したり、役割を決めて分担して読んだりした。今年度は、県の朗読大会へ挑戦して一位を取った子が発表したり、全校の前に立って一人で読んでみたいと言う子が出てきたり、活動の広がりを感じられた。全校朗読は、気持ちや考えを表現する場とともに、進んで参加する態度が養われる場にもなっている。

③全校ダンスによる学び

今年度、合唱と朗読に加え、体全体で表現する「全校ダンス」を取り入れた。ダンス講師を務めている保護者の方をお願いし、4月から9月末まで、定期的にダンスの講習が行われた。1年生から6年生、教職員も含め、学校中が運動会での全校発表を目指して一つになっていった。運動会では、講師が勤めるダンス教室の生徒も参加し、会場の保護者もみんなで楽しんだ。全校ダンスを通して、子供、教職員、保護者、地域のつながりに深まりが見られた。それに加え、他地域に住むダンス教室の講師や生徒達など、地域の外とのつながりも持つことができた。つながりの広がりを感じることができた。

④合唱部による地域活動への積極的参加からの学び

「音楽は人々を結びつけ、相互理解を生み出す巨大な力を持つ。それは普遍的な平和の言葉」という国連事務総長の言葉通り、音楽は身近な仲間や地域のみならず、他校や外の地域ともつながりを築いている。外国人弁論大会、藤岡地方ユネスコ協会創立40周年記念式典、地元の公民館文化祭、バザー等、多くの場で出演の機会をいただき、多方面の方々との交流を深めている。仲間とともに合唱をつくり上げ、それをういて会場の方々とつながりを持ち、視野を広げていく活動は、将来子供達が、今以上に広い世界で活動を始めた時に、国や宗教や民族を越えて良好な関係を築いていく基礎となる力になって身についていくと思う。

⑤服のチカラプロジェクトからの学び

ユニクロが企画する「服のチカラプロジェクト」に4年生が中となって取り組んだ。この活動は、高学年ではなく、4年生が学校の中心となって始めたことにより、中学年からのリーダー性の育成と、卒業までの3年間で自分達の実行力を基に「他者と協力する態度」「つながりを尊重する態度」「進んで参加する態度」等を身につけて欲しいとの願いを込めた。自分達で広告を描き、他学年へ出向いて趣旨を説明し、保護者向けにお便りを発行するなど、次々とアイデアを出しては実行へと移していった。最終的に、学校や地域を越えて、洋服

やズボンを1600枚以上集めることができた。自分達から動き出せば、多くの人々が応えてくれ、多くの難民の人々の役に立つことができた、と子供達自身が実感できた活動となった。また、紛争や難民問題など国際社会への関心も高めることができた。



① の写真（全校合唱）



② の写真（全校朗読）



③ の写真（全校ダンス）



⑤ の写真（合唱部発表）



④ の写真（服のチカラ）

（2）活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項1-2, 2-1に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他(他者理解 地域活動)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 ・自分で感じ考える力 ・気持ちや考えを表現する力)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

ユニクロ「服のカプロジェクト」

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

業前活動の年間計画や総合的な学習の時間の年間指導計画の中に、ユネスコスクール及びESDの考え方を意識して位置付けている。活動を行う際、また、学習を進めていく際、国語科で身につけた書く力や説明する力、社会科で身につけた国々の位置関係や社会情勢、算数科で身につけた統計の取り方や表やグラフへのまとめ方や読み方、理科で身につけた科学的な物の見方などをユネスコスクールとしての活動に生かしていくという意識を、教師児童ともに持って当たるようにしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

藤岡市では、小中一貫教育が行われているため、小学校での学びが小学校だけで途切れないように、各教科等において、小中9年間の全体計画と系統表を作成して指導に当たっている。校内においても、学年間の縦のつながりの学びが意識できるように、教科部会を各学年の代表者によって組織している。また、9年間の縦のつながりも意識できるように、小中ともに年間行事予定表に小中合同の教科部会を位置付けている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

年間 2 回、学校評価アンケートを職員、児童、保護者を対象に行い、集計して公開している。また、各行事の立案については、前年度の反省を基に改善案が示され、よりよい活動として実施されている。今年度の大きな成果としては、4 年生からリーダー性を育てていこうと実施した「服のチカラプロジェクト」が挙げられる。学校、地域を越えたつながりを得ることができた。課題としては、各教科の指導内容と SDGs が示す 17 の大きな目標との関連を年間計画の中にはっきりと示し、より効果を上げていくことである。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200 字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学校HP、学校だより、学級通信等により、活動成果を発信した。服のチカラプロジェクトでは、途中経過を発信することにより、より多くの方々から活動に協力してくれるようになり、衣類の寄付と共に、難民問題や社会情勢への関心も深めてくれた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)
(200 字程度)
※チェック事項 2-3 に対応

ユニクロの「服のチカラプロジェクト」に参加したことにより、学校だけでは行うことのできない活動を経験することができた。難民問題、紛争等の中で困っている人々が大勢いることを知り、その人達のために自分達にできることを行動に起こしていく体験は、教科書だけでは得ることのできないものであった。積極的に学校の外の力を借りることの価値を実感した。今後も学校外へ積極的に働きかけていきたいと思う。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200 字程度)
※チェック事項 2-4 に対応

現在本校では、北中校区の小中一貫教育(小学校 2 校、中学校 1 校)が行われている。授業や研修を通して教職員の行き来も行われているため、児童の作品の交流や活動の依頼なども行われている。また、3 校共通の教育目標や目指す児童像も設定されており、活動の内容や良さを伝え合える環境にある。今後は、市内全ての小中学校がユネスコスクールに加盟している利点を生かして、「平和な世界の構築」「持続可能な社会の推進」に向けた活動を行っていきたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

自分達の活動が人の役に立っているという実感や、自分達の呼びかけに対して学校や地域を越えて反応が返り、成果を上げていくという経験は、子供達の意欲や発想、行動を前向きなものへと大きく変えていった。成功体験は自信やさらにその先へ進もうとする力となる。また、うまく進まない経験も、自分達の活動の仕方を振り返り、改善すべき点を見直し、再出発していくという姿へと結びついていた。多くの人との関わりは、活動を大きく広げるとともに、協力することの楽しさや価値を子供達に味わわせていた。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

全校合唱、全校朗読、全校ダンスなど、校内の活動で子供達に、協力する態度や表現力等、育みたい資質や能力の基礎をしっかりと身につけさせていく。基礎となる力を多くの場で使いながら、その力を「使える力へ」、「使ってみたくなる力」へと高めていきたい。合唱の地域参加をはじめ、その他の活動においても、学校外とのつながりを積極的に行っていききたいと思う。服のチカラプロジェクトについては、2年目の実践に入る。

校内、地域、学校や地域の外の人々との活動や成果の発信を積極的に行い、子供達がよりよい未来を自分達の手で創っていくという意識を高めていけるよう、ESDとしての活動と授業内容を結び付け、実践を行っていききたいと思う。

また、来年度は、第一線で活躍している「本当の力を持つ大人」と子供達を出会わせ、「あこがれ」も力の一つとして子供達を前へ進ませたいと計画している。